

令和7年度の学校運営と令和8年度に向けて(学校評価から)

千葉市立犢橋中学校
校長 樋口 明正

令和7年度は、学習プリントを、全学年で、朝と帰りの学活の時間を使って解答、採点、回収を行い、徹底することができました。また、夏季学習相談会等の参加人数も増えました。授業参観や学年保護者会の出席者も増え、保護者の皆様との連携を深めた教育活動を実施することができました。

さて、学校は信頼される公教育の確立をめざして、学校教育目標・活動状況・成果などの教育活動全般に関する情報を保護者や地域に積極的に発信し、説明責任を果たしていくことが強く求められています。本校においても、保護者や生徒の期待に沿う学校づくりを推進するため、保護者や生徒、教職員から学校評価アンケートを実施いたしました。例年同様2回(9月・2月)の学校評価アンケートを実施いたしました。生徒及び教職員にはギガタブを使用して調査し、保護者は学校家庭連絡メール『すぐーる』を使用し調査しました。

つきましては、その結果を報告するとともに、調査結果をもとに令和8年度の学校運営の指針としていきます。

1. 学校評価とは

学校評価は学校の教育方針に則り、努力目標を具現化するため、日々の活動を点検・評価するもので、学校運営や教育活動の改善に活かし、学校の力を高めることを意図したものです。すなわち、生徒のよりよい人格形成のために学校評価を行い、教育の質を保証することを目的とすることで、学校評価システムの構築を図り、「開かれた学校づくり」「保護者・地域から信頼される学校づくり」を目指すものです。

2. 実施内容

生徒、保護者、教職員を対象に意識調査を行い、実態の把握に努めました。各調査項目の回答については、4段階方式を採用し「評価4：そう思う(大いに成果あり)」「評価3：少しそう思う(課題も多少あるが成果のほうが多い)」「評価2：あまりそう思わない(課題があるが、深刻な状況ではない)」「評価1：まったく思わない(直ちに改善措置が必要である)」の項目を設定しました。そして、評価4と評価3を肯定的な結果、評価2と評価1を否定的な結果と捉え、その割合を基に分析をいたしました。

3. 生徒・保護者及び教職員のアンケート結果 別紙をご参照ください。

4. 令和7年度の学校評価を振り返って ※アンケート結果の数値は、後期の値を載せています。

【学習指導】

・本校では「わかる授業」を重点目標とし、各教科で授業研究等を行い、教員の指導力の向上や授業改善に取り組んできました。特に令和7年度は、学力向上アクションプランのテーマ

を「楽しい授業展開のための授業改善」として取り組んでまいりました。また、各教科で本時の授業の流れ・目標を「授業のメニュー」として示すことで、授業の見通しがもてるようなアプローチを進めることを継続するとともに、令和6年度学校評価アンケート【生徒】No.21「授業の終わりに学んだことを確認する、まとめや振り返りをする場面がある。」が、64%に下がったことを受けて、このことを意識した指導に取り組みました。その甲斐あって、【生徒】No.21の肯定的な回答が、75%へと向上しました。【生徒】No.22「学習での努力が成果として表れている」の結果も69%から73%へと増加しました。

更に、近年、本校の各教科の力がかなり不足していることが千葉市学力状況調査等の結果から判明しています。そこで令和4年度より、ESL (English Support Lesson 英語補習学習会) を実施しております。また、数学ではTTによる授業を各学年で展開し、複数の指導者が生徒をきめ細かく指導できる体制を整えています。ギガタブを使用する場面を増やしたり、言語活動を増やしたりと、生徒の意欲を高める指導方法を追究し、「確かな学力の育成」に取り組んでいます。そのかいあって、【生徒】No.19:「授業は楽しく取り組んでいる」では約87%の生徒が、「No.18: 授業内容は理解できている」においても約85%の生徒が肯定的な回答を示しています。このことから多くの生徒が日々の授業に対し「学ぶ意欲」「学習への取組」については意識が高いことがうかがえます。

- ・本校の課題の一つとして生徒の「基礎学力の定着」があげられます。単元終了後の章末テストや定期テスト結果を見ると日々の学習の成果が十分に発揮されていないことが現状です。そのため、学習プリントの活用に取り組み、令和6年度後期からは、学校で行う補習プリントとしての活用に取り組みました。学校で行うことによって、未提出、回答の丸写しがなくなり、取組の質が上がりました。令和8年度は、個々の課題に対応できるよう、ギガタブ内の学習コンテンツを使って、補習や予習に取り組む時間を設けます。

【学校生活・生徒会活動】

- ・【生徒】No.6:「思いやりの気持ちを持って人と接している、【保護者】No.6:「お子様は人を思いやる気持ちが育っていると思う」の項目においてもここ3年間、90%以上の生徒・保護者が肯定的な回答を示しています。このことから「他の人に立場に立って考えるようにしている」ことが学校生活の中でも培われていることが伺えます。「他の人の立場に立つ」とはどういうことなのかを指導の基本とし、さらに互いを尊重しあえる人関係作りの構築に取り組んでいきます。
- ・【生徒】No.11:「奉仕活動などのボランティア活動を行っている。または、積極的にボランティア活動に参加してみたい」の肯定的な回答が前期57%だったのが、後期64%へと増加しました。11月に育成委員会主催の地域の環境整備活動があり、多くの生徒が参加していたことの反映だと思われます。しかし、経年変化としては減少しています。機会があれば、参加したいという生徒の声も聴いておりますので、今後もボランティア教育を推進すべく様々な活動の機会を設け、「心の教育」の充実に努めます。また、将来の地域を担う人材育成という視点に立ち、「郷土愛」を育むことにも繋がるため、地域行事への参加を推進していきます。
- ・【生徒】No.10、No.14の、学校行事への取組や学校生活への満足度では、90%前後の生徒が肯定的な回答でした。さらに生徒の主体性を伸ばすために、充実感や達成感を得られる指導に努めます。

【家庭・地域との連携】

- ・令和7年度は、授業参観や保護者面談、PTA活動、各種行事等を通じて学校への理解と協力を深めていただく場を多く設けることができました。令和8年度も引き続き家庭と連携を取りながら教育活動を推進して参ります。なお令和8年度の行事については、授業参観（4/25、10/31）、体育祭（5/30）、合唱コンクール（10/23：千葉市美浜文化ホール）等を予定しています。
- ・学校評価や学校評議員制度を有効に活用し、より一層の「開かれた学校」づくりに努めます。なお、学校評議員会は令和8年度も年間3回を予定しております。
- ・学校運営に関してはさらに情報公開が図るために、学校のホームページを活用して、学校案内や学校経営計画、学校評価をはじめ多くの情報を伝えるよう努めます。
- ・学校からの文書に関する【生徒】No.13、【保護者】No.13の結果がどちらも70%に届かない現状を受けて、令和8年度は、学校だより等の「すぐーる」での配信に取り組む予定です。

【進路指導】

- ・キャリア教育については、今年度も地域の事業所を中心に職場体験の実施、外部講師を招いての「ものづくり講座」などを行いました。令和8年度も体験的な学習や外部講師を招くなどの学習を織り交ぜながら、進路意識の高揚を図ることはもちろん、望ましい勤労観や職業観を持てるように系統的な指導に努めます。
- ・毎年のように私立高校や公立高校の入試制度が変わってきています。令和6年度には公立高校の出願がすべてWeb出願になるといった変化がありました。令和7年度は公立学校に提出する調査書の記載内容の変更もありました。そのために、探究ラボを使用しての生徒へのWeb出願の説明や、保護者を対象とした進路説明会を含め、進路全般に関する情報をより分かりやすく提供するよう努めます。

【基本的生活習慣及びマナーや規範意識の向上】

- ・【生徒】No.2～5は、いずれも90%以上の肯定的な回答を示しており、生徒の規範意識が育っていることがわかります。この結果から本校は、非常に落ち着いて学校生活を送れているといえます。しかしながら、学校評価アンケート【保護者】No.2では、86%、No.3では72%の肯定的な回答にとどまり、生徒との差異が生じていることがわかりました。社会性を身に付けるためにも基本的生活習慣の指導を継続して行っていくことと同時に家庭との連携、情報共有など適宜行います。
- ・生徒同士、生徒と教師の共感的な人間関係を大切にした学年・学級経営をより推進していきます。生徒の人権を尊重するとともに、生徒理解に努め生徒と教師の信頼関係を築いていきます。また、日頃から生徒の悩みや相談に対して、いつでもしっかりと向き合っていきます。

【学校評価の改善】

- ・学校評価結果を文書やホームページ等を通じて広くお知らせしています。さらに評価項目等を工夫し、学校運営に活かしていきます。今後も一層のご理解とご協力をお願いします。